

2024年度「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館の利用者の状況や傾向を把握。

■ 実施期間・配布について

アンケートの実施期間は2024（令和6）年10月29日（火）から11月4日（月・祝）（※11月3日（日）を除く）の計6日間で、配布枚数は681枚、うち回収枚数は430枚となり、2023年の回収枚数437枚（配布枚数668枚）より、回収率は前年比96.5%となりました。

1 アンケート回答者の情報

1) 年代（第9表・第9図 参照）

- 「50代」が81人（18.8%）と最も多く、「30代」が40人（9.3%）で最も少なくなりました。
- 2023年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「19歳以下」で、約5ポイント減少しました。また、「19歳以下」が減少したことに対し、「20代」が約3ポイント、「40代」が約2ポイント増加しました。

2) 職業（第10表・第10図 参照）

- KSP内在勤を含めると「会社員・公務員」が178人（41.4%）と最も多く、次点は「学生」88人（20.5%）となりました。「19歳以下」が減少したことに伴い、「学生」も2023年に比べて約3ポイント減少しています。また、「会社員・公務員」は約3ポイント増加したのに対し、KSP内在勤の「会社員・公務員」は約3ポイント減少しました。

3) 住所（第11表・第11図 参照）

- 県内在住者が全体の80%以上を占めています。県内の内訳では川崎市在住者が全体の70.9%となり、県立川崎図書館所在地の高津区在住者は全体の45.3%です。2023年と比較して県内在住者は約2ポイント、川崎市在住者は約0.5ポイント減少しました。
- 県外在住者は全体の8.8%です。2023年と比較して約0.8ポイント増加しました。

2 利用頻度について（第1表・第1図 参照）

- 利用頻度は「月に数回」が148人（34.4%）と最も多く、次は「週に数回」128人（29.8%）、「年に数回」86人（20.0%）となりました。来館者の80%以上がリピーターであり、定期的な利用が定着していることが伺えます。
- 2023年と比較して「月に数回」が約7ポイント減少、「週に数回」が約6ポイント増加しました。

3 来館目的について（第2表・第2図 参照）

- 来館目的は「個人的な利用（趣味・自習）」が306人（71.2%）と最も多く、次は「専門書の利用」99人（23.0%）、「仕事上の利用」89人（20.7%）、「座席の利用（自習・休憩）」88人（20.5%）

となりました。

- 2023年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「座席の利用（自習・休憩）」で、約6ポイント減少しました。
- 利用しているコンテンツ（選択項目③、④、⑤、⑥、⑦）では、「専門書」99人（23.0%）が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」54人（12.6%）、「社史」10人（2.3%）、「電子ジャーナル・データベース」8人（1.9%）と続いています。
- 座席の利用（自習・休憩）が約6ポイント減少しているのに対し、「専門書」と「専門誌・学会誌・新聞」については、2023年と比較してそれぞれ4ポイント以上増加しており、当館の専門的資料の利用が増えていることがわかります。

4 県立川崎図書館の選択理由について（第3表・第3図 参照）

- 「家から近いから」226人（52.6%）が最も多く、次は「静かな環境だから」166人（38.6%）、「専門的な資料があるから」152人（35.3%）となりました。
- 2023年と比較して構成比の変化が最も大きかったものは「静かな環境だから」が約5ポイント減少、「職場・学校から近いから」が約4ポイント減少しました。また、「専門的な資料があるから」が約4ポイント、「家から近いから」は約2ポイント増加しており、近隣の皆様に当館の特色あるコレクションが周知されてきたのではないかと推測できます。

5 利用場所について（第4表・第4図 参照）

- 「個別閲覧席（キャレル席）」100人（23.3%）、「テーブル席（カウンター前）」79人（18.4%）、「書架（専門図書）」87人（20.2%）が主に選択されていますが、2023年と比較して「個別閲覧席（キャレル席）」は約3ポイント、「テーブル席（カウンター前）」は約2ポイント減少しました。
- 書架（選択項目①～⑤）で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」87人（20.2%）で、2番目は「専門誌・学会誌」71人（16.5%）です。この傾向は2023年と同様です。

6 利用時間について（第5表・第5図 参照）

- 「1時間未満」184人（42.8%）が最も多く、「1～2時間未満」85人（19.8%）、「2～3時間未満」58人（13.5%）と続きます。この傾向は2023年と同様です。
- 2023年と比較して「1時間未満」が約6ポイント増加、「1～2時間未満」、「2～3時間未満」、「3～4時間未満」、「4時間以上」はいずれも減少しています。

7 利用の成果（アウトカム）について（第6表・第6図 参照）

- 選択率の上位4項目は、「知識・教養が深まった」157人（36.5%）、「余暇を有意義に過ごせた」136人（31.6%）、「研究や調べものが進んだ」104人（24.2%）、「仕事に役立った」99人（23.0%）です。
- 2023年と比較して、「知識・教養が深まった」、「学びのきっかけと出会った」、「余暇を有意義に過ごせた」が約2ポイント増加、「研究や調べものが進んだ」が約2ポイント減少しました。このことから、当館の利用により仕事や研究以外の成果が得られたのではないかと推測でき

ます。

8 満足度について

➤ 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」について（第7表・第7図 参照）

- 「満足」（63.5%）、「どちらかといえば満足」（33.0%）を合計すると96.5%となります。2023年の「満足」（59.0%）と「どちらかといえば満足」（39.6%）の合計は98.5%でしたので、2024年は約2ポイントの減少となりましたが、昨年と同様に中央値は4を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にあります。

➤ 「資料やサービスについての満足度」について（第8表・第8図 参照）

- 「満足」が最も多く選択された項目は「施設・設備」（68.6%）です。「どちらかといえば満足」（25.8%）との合計でも94.4%と最も満足度の高い項目でした。次点は「職員の対応」（満足：59.1%、どちらかといえば満足：25.1%）です。
- 上記以外で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた項目は、「開館日・開館時間」（83.8%）、「図書」（70.4%）です。
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が5割未満の項目は、「パンフレット・チラシ」（44.9%）、「電子ジャーナル・データベース」（41.3%）、「調査・相談」（35.6%）、「電子書籍」（32.1%）、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」（29.7%）です。

ただし、「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目において、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではありません。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向（69.5%から53.7%）にあります。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられます。

- 「わからない」が5割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」（69.5%）、「電子書籍」（63.5%）、「調査・相談」（62.0%）、「電子ジャーナル・データベース」（56.0%）、「パンフレット・チラシ」（53.7%）です。
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」（5.1%）です。「どちらかといえば不満」と合わせると15.5%で、上記のとおり、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が80%を超えている一方で、一部には不満があるという結果となりました。